

別紙様式 1

令和5年度呉中央中学校区研究推進計画

校番(13) (呉中央) 学校

校長名 坂田 恭一

- 1 学校教育目標
自分を育てる
- 2 目指す児童生徒像
生涯を自ら豊かに学び続け、自他を大切にして主体的に生ききる児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等		学びに向かう力, 人間性等
		思考力	表現力	主体性
後期	様々な場面で活用することができる知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて, 収集した情報を抽象化したり, 構造化したりして, 解決策(新たな価値)を考えることができる。	発展させた自分の考えや集団の考えを, 状況に応じて, 適切に表現したり, 伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて, 自分で目標を見だし, 協働して取り組み, 様々な場面で実践することができる。
中期	学習過程において活用することができる知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて, 情報を多面的・多角的に見たり, 根拠を基に理由付けしたりして, 解決策を考えることができる。	自分の考えや集団の考えを, 目的や相手によって, 効果的に表現したり, 伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて, 自分の考えを明確にもち, 協働して取り組むことができる。
前期	学習に必要な基礎的, 基本的な知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて, 事象を比較したり, 分類したり, 関連付けしたりして, 解決策を考えることができる。	自分の考えを, 分かりやすく表現したり, 伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて, 興味をもって, 自分から取り組むことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

地域貢献できる児童生徒の育成
—問いがつながる深い学びの実現を通して—

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園は、「自分を育てる」を学校教育目標とし、「生涯を自ら豊かに学び続け、自他を大切にして主体的に生ききるねっこ」を児童生徒に育成することを目指して、豊かな「学び」と豊かな「生き方」を基盤とした教育活動を展開している。

本校では、この学園構想のもと、育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力」「表現力」「主体性」の4つに設定し、研究主題を「深い学びを実現する授業の創造 —探究的に学ぶことができる生活科・総合的な学習の時間を通して—」として、研究を進めてきた。具体的には、生活科は「気付きの質が高まる学習過程」、総合的な学習の時間は「探究的な見方・考え方を働かせる学習過程」をその研究内容として、資質能力の育成をめざして取り組みを3年間進めてきた。総合的な学習の時間については、単元そのものの見直し全学年で行い、探究的な学びになるよう大幅に作り直した。その後は、各学年の年間指導計画を

ブラッシュアップしながら取り組んできた。

生活科および総合的な学習の時間の児童生徒，教職員意識調査では，どの項目についても次のように高い割合の肯定的回答が得られた。

生活科

<児童の意識調査の結果>

資質・能力	質問項目	肯定的回答 (%)
思考力	生活科では比べたり，仲間分けしたり，つなげたりして考えている	92.6
表現力	生活科では自分の考えを分かりやすく表したり，伝え合ったりしている	91.5
主体性	生活科では興味をもって自分から取り組んでいる	93.2

○気付きの質を高めさせる場面で，比べたり，仲間分けをしたりすることで多くの児童が新たな発見をしたり，自分の考えだけでは思いつかなかったことに気付いたりすることができていたと考える。また，ワークシートの工夫により，児童の気付きや考えを表出させることで思考を整理でき，より分かりやすく説明することができたことや，自分の体験や経験に基づいて主体的に学習活動を展開することができた成果であると考え。

●表現する場面で，友達の前で言葉で伝え合ったり，話し合ったりする活動には多く取り組んだが，伝えるための他の表現方法を体験させることができなかつたため，多様な表現方法を体験させていく必要がある。また，自分の考えをまとめて伝え合うことはできていたが，そのことから次への活動につなげることには課題が残った。

<教職員意識調査の結果>

質問項目	肯定的回答 (%)	
児童に新たな気付きが生まれ，質的な高まりが見られる授業になっていたか	充分満足できる 45.2%	おおむね満足できる 54.8%
児童の気付きの質を上げていくことができる学習過程が展開されていたか	充分満足できる 30.0%	おおむね満足できる 70.0%

○研究授業では，小グループで話し合い活動を行うことで新たな気付きを見つけ，思考を深めることができた。また，友達や教師からの質問によって自分自身の気付きの質が高まる姿が見られた。

●自分と他者との関わりにも視点を広げ，他者との双方向の関係を提示することで，さらなる深まりにつながることを考えられる。

総合的な学習の時間

<児童生徒の意識調査の結果>

資質・能力	質問項目	肯定的回答 (%)
思考力	総合的な学習の時間では情報をもとにいろいろな視点から考えたり理由付けしたりして解決策を考えている	96.4
表現力	総合的な学習の時間では自分やグループの考えを目的や相手を意識して表現したり伝え合ったりしている	95.0
主体性	総合的な学習の時間では課題解決に向けて自分の考えを明確にもって取り組んでいる	94.7

- 課題解決に向けて、複数の視点で情報を集めさせて分析したり、比較、関連付けることで共通点や新たな価値に気付いたりする活動を充実させることができたと考える。また、整理、分析する場面ではグループやペアによる話し合い活動を積極的に取り入れ、交流する機会を多く設定できた。さらに、まとめや表現する場面では、常に相手や目的を意識しながら活動するよう声かけをしたり、視点をもたせたりすることもできた。実体験に基づく困り感を起点として次の活動にうつるようにしたため、課題解決のための目的意識を明確にもち、学習に取り組むことができた成果であると考える。
- 全体的に見ると、肯定的回答の割合が非常に高いが、「そう思う」と回答している児童生徒の割合は半数程度にとどまっている。より探究的な学習をすすめる、深い学びにつなげられるように授業改善を行う必要がある。

<教職員意識調査の結果>

質問項目	肯定的回答 (%)	
児童生徒が探究的な見方・考え方を働かせながら、課題解決しようとしている	充分満足できる 50.5%	おおむね満足できる 45.2%
デジタル機器の活用によって、児童生徒の思考が深められている	充分満足できる 52.5%	おおむね満足できる 47.5%
児童生徒の新たな考え方や課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される単元構成になっていたか	充分満足できる 50.5%	おおむね満足できる 46.2%

- 研究授業では複数の視点を捉えながら、思考ツールの活用により考えを整理させ、考えを深めることができた。また、タブレットで写真を提示することで体験を想起させ、主体的に取り組むことができたり、更新された課題に対し、自分なりの考えを追究してグループで共有したりすることもできた。
- さらに児童生徒にとって自分事となるように、体験や具体的な情報を根拠とした思考、発言を深めたり、教師の課題提示を減らし、自由に考えさせることで自分達で気付くことや、主体的に学ぶ動機が増えたりするものと考えられる。

一方で、学園全体の課題として、教師が授業を引っ張り過ぎる傾向があり、なかなか児童生徒から出てくる言葉をつなぎ、授業を展開していくことは難しい現状がある。そこで、今年度は、児童生徒の問いがつながる主体的な学習活動を展開することで思考を深め、より高いレベルでの深い学びを実現し、地域に貢献できる児童生徒の育成を目指す。また、児童生徒自身が自分の学びの進捗状況を把握し、課題解決に向かって自分で学びを調整したり、学習全体を俯瞰して振り返ったりするための「できるようになったよシート（生活科）」および「あしあとシート（総合的な学習の時間）」を学園全体で活用することで、児童生徒の姿や変容から取組を検証し、より深い学びを目指すことで、学園で目指す資質・能力を育成していく。

(3) 研究仮説

児童生徒が主体的な学習を通して見いだした問いが学びにつながる授業を展開し、自分の学びを振り返りながら自己調整を積み重ねる中で深い学びを実現すれば、よりよい未来のために地域と関わり、地域に貢献できる児童生徒の育成をすることができるであろう。

5 研究内容

【生活科】

○ 問いがつながり、気付きの質が高まる学習過程

(①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する)

・ 試行錯誤や繰り返す活動の設定
 ・ 伝え合い交流する場の工夫
 ・ 振り返り表現する機会の設定
 ・ 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする工夫

・ 発問の工夫
 ・ 振り返りシート（できるようになったよシート）



【総合的な学習の時間】

○ 問いがつながり、学びが深まる学習過程

(①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現)

・ 出合わせ方の工夫（課題設定）
 ・ 目的を明確にした情報収集（情報収集）
 ・ 「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールの活用（整理・分析）
 ・ 明確な相手意識・目的意識（まとめ・表現）

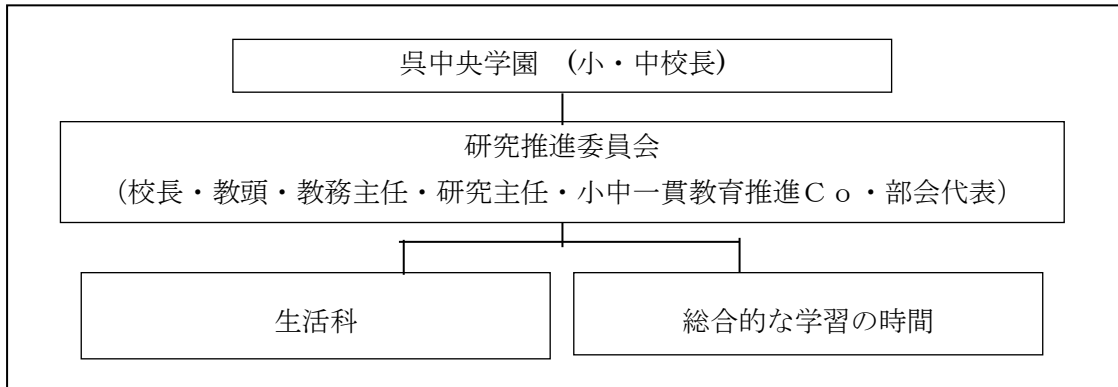
・ 発問の工夫
 ・ 振り返りシート（あしあとシート）



6 検証について

	検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
生活科	①児童の問いがつながり、気付きの質を高めていくことができる学習過程が展開されていたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価における肯定的評価	—	85%以上
	②資質・能力を育成することができたか。	児童生徒意識調査	児童の肯定的評価	—	85%以上
	③ICTを効果的に活用することができたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価における肯定的評価	—	85%以上
	④児童の変容が見られたか。	振り返りシート（できるようになったよシート）の記述分析			
総合的な学習の時間	①児童生徒の問いがつながり、学びが深まる学習過程が展開されていたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価における肯定的評価	—	85%以上
	②資質・能力を育成することができたか。	児童生徒意識調査	児童の肯定的評価	—	85%以上
	③ICTを効果的に活用することができたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価における肯定的評価	—	85%以上
	④児童生徒の変容が見られたか。	振り返りシート（あしあとシート）の記述分析			

7 推進体制等
 (1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・小学校第5・6学年 音楽科, 理科, 外国語科

(小→中)

- ・なし

イ 小学校教科担任制等

- ・小学校 第4 (1学級) ・5 ・6 学年 (理科) 第5 ・6 学年 (家庭科)
 第2 学年 (2学級) ・3 ・4 学年 (書写) 第3 学年 (外国語活動)
 第4 (2学級) ・5 ・6 学年 (体育)

8 推進計画

月 日	内容	
	呉中央中	呉中央小
4月6日	全体研修 (本学園の研究について)	
7月28日	全体研修 (「学びの変革」に係る理論研修)	
8月3日		1学期の授業分析と2学期に向けて
8月21日	1学期の授業分析と2学期に向けて	
10月16日	全体研修 (小学校授業研究①) 総合的な学習の時間 指導・助言者 安田女子大学 客員教授 朝倉 淳	
11月7日	全体研修 (中学校授業研究②) 総合的な学習の時間 指導・助言者 安田女子大学 客員教授 朝倉 淳	
1月12日	2学期の授業分析と3学期に向けて	
2月1日	全体研修 (授業研究③) 生活科 指導・助言者 呉市教育委員会 指導主事	
2月9日	今年度の成果と課題	

9 その他

- ・小中合同行事 (大運動会, いじめ撲滅標語募集, 小中合同避難訓練)
- ・小中一貫だよりの発行

※ 研究構想図, カリキュラムマップを添付する。